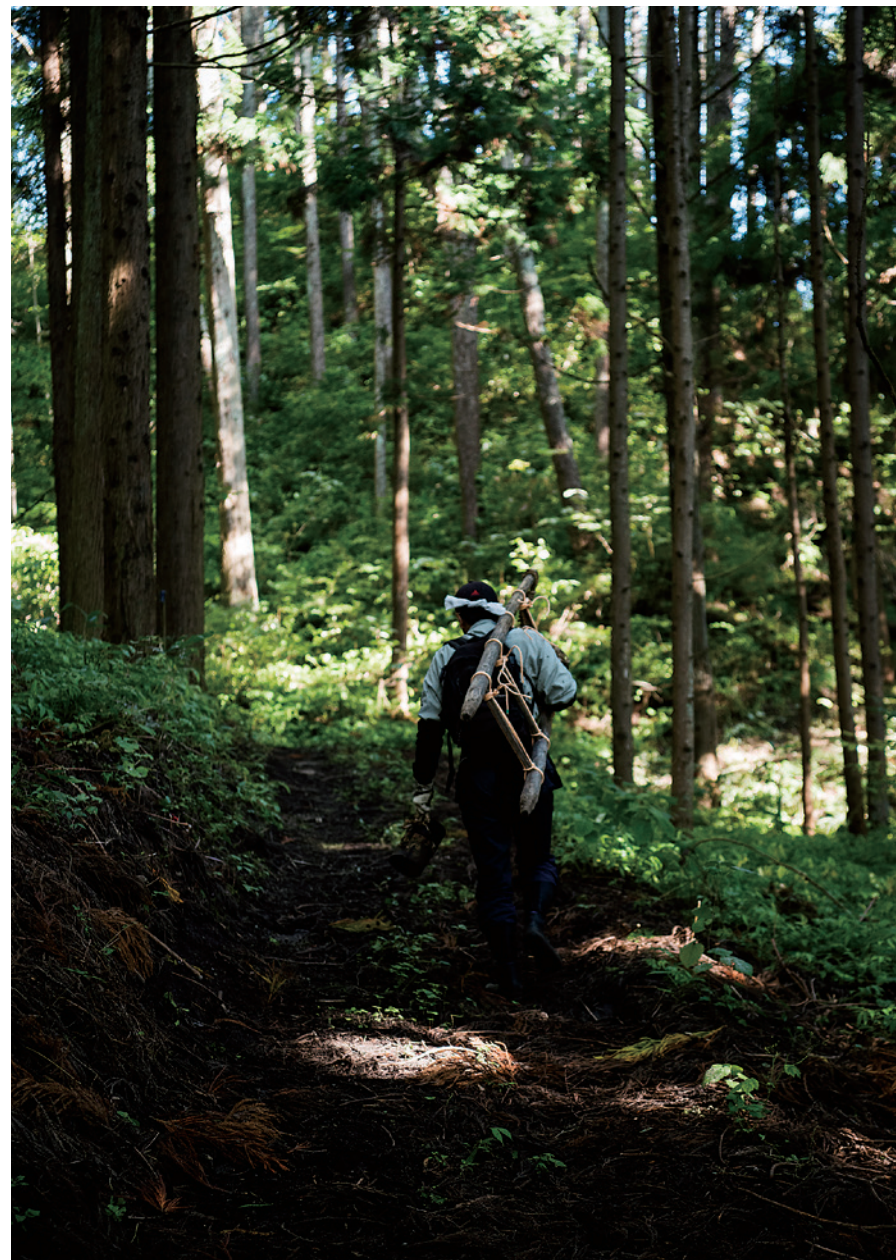




# 和のしずく

Joboji Urushi

浄法寺漆のうつわ



滴生舎  
てきせいしゃ

二戸市浄法寺町御山中前田23-6 TEL 0195-38-2511 FAX 0195-38-2610  
滴生舎 <http://www.tekiseisha.com/> うるしの國・浄法寺 <http://urushi-joboji.com/>

# 漆の森から

浄法寺の山が新緑に萌える6月  
漆掻きの仕事が始まります。

漆は、木の樹液。

日本古来の天然の塗料です。

ここはいつも漆の産地

国内生産の7割を誇ります。

鼻をくすぐる甘い、いい香り。

漆の仕事にたずさわる人たちは

漆の匂いを口々にそう話します。

浄法寺漆の美しいうつわは、

自然が生み出す、いのちのうつわ。

ずっと昔から、浄法寺に伝わる

大切なたからものです。

現在日本で使用される漆のほとんどは外国産のもの。国産はわずか3%。  
そのなかで、およそ70%が二戸地方で生産される浄法寺漆である。



めのがとけたような色味の生漆。これを精製して使用する。



漆は黒くなり、傷をふさぐ。漆を掻くごとに「辺」と呼ぶ傷が増えていく。

## ≡ いのちの滴を 掻き集める

浄法寺の漆掻きは、梅雨入りの頃、ウルシの木に小さく傷をつける辺付けから始まります。それから初冬の止め掻きまで、およそ6か月、漆を掻きます。漆カンナで削った一文字の傷、この傷からにじみ出る乳白色の漆を、ヘラの先で掻き取ります。傷が浅過ぎると漆が出ない、深すぎるとウルシが枯れてしまう。一本のウルシの木と、職人が向き合って、一滴一滴、大切ないのちの滴を掻き集めます。

## ≡ 漆の一滴が 日本の文化になる

1本の木から採取される漆はおよそ200g。この貴重な漆が塗料や接着剤として、日本の文化を支えてきました。生産量が少なくなりましたが、美術工芸品や漆器のほか、日光東照宮や中尊寺といった国宝など文化財の修復にも使われています。地元二戸では、必要な量の確保のために植林にも力を入れ、品質を守るため、浄法寺漆認定制度にも取り組んでいます。滴生舎は、この大切な漆でうつわをつくっています。



### 浄法寺漆だけを塗る滴生舎のぜいたく

滴生舎でつくる漆のうつわは、浄法寺漆100%。木地に漆を吸わせて強固にする木固めから、下塗り、中塗り、上塗りまで、すべてに浄法寺漆を使っています。ひたすら丁寧に漆を塗って研いでを繰り返す、塗り重ねの手法です。地元の漆を地元で塗る、ごく自然のつくり方が、いまの日本では貴重なものになりました。丈夫な漆の層で覆われたうつわは、ぬくもりと奥ゆかしい色艶をたたえています。

浄法寺漆を塗る、研ぐ、研ぐ、塗る、滴生舎の一日





## ≡ 丈夫な浄法寺漆のうつわ

浄法寺の漆器のルーツは地元  
古刹・天台寺の修行僧が使って  
いた什器。そのため多くは、黒、  
朱、溜を中心としたシンプルなう  
つわです。丹精な見た目ですが、  
9000年前の漆が遺跡から出て  
くるほどですから、うつわとして  
はとても丈夫です。お箸で食べる  
ものなら、お酢の料理も油物も、  
和食も洋食も、どんな料理も載せ  
られます。漆は抗菌効果も高いの  
でお弁当などに向いています。



左は、右と同じ汁椀を5年間使われたお客さまから、修理のために届けられたもの。あまりに美しい艶に手元に置かせてもらった。

### 長くお使いいただくために

汚れ落ちはよいので、基本は、ぬるま湯と手で十分です。ほかの食器と分けて洗うと、傷がつきづらく長持ちします。油ものなどは、やわらかいスポンジに薄めた洗剤をつけて洗い、すすぎます。水垢対策としては布巾で拭くのが理想的です。

- ・金属のカトラリーとの使用は避けてください。
- ・食洗機、電子レンジ、オープンでのご使用はできません。
- ・長時間水に浸けることは避けてください。
- ・直射日光が当たらない場所で保管して下さい

※お買い上げいただいたうつわの修理も承っています。  
混んでいる時期もございますのでまずはご連絡ください。

一番いいお手入れは日々使うこと。使うことで適度な湿気を保ち、拭かれる度に磨かれていきます。「わたしのうつわ」を育ててください。

浄法寺漆のうつわは、静かで深い色合いを持っています。手に吸い付くような肌ざわりが心地よく、使い込むほどに、艶やかな肌へ変化していきます。最後の磨きをかけないしっとりとした質感は、塗師が7割、使い手が3割で仕上げるといわれ、日々の暮らしによって磨かれていきます。金属やガラスより熱の伝導性が低いので、温かい汁物は温かく、冷たい飲み物も冷たいまま味わかる、とても使いやすいうつわです。

暮らしが育てる 静かなうつわ

### 浄法寺漆のふるさと

滴生舎は浄法寺漆の産地である二戸市浄法寺にある、浄法寺漆のうつわの専門店です。滴生舎とは、「生命、の滴」「人と共生する滴」から名づけられました。漆の一滴一滴を大切に、隣接する工房で、全工程に浄法寺漆を使いたうつわをつくり販売しています。ほかに、浄法寺漆で仕上げた作家作品など、漆にこだわった製品が並んでいます。実際に手にとって、漆掻き職人と塗師がつくりあげた、一生つきあえる自分のうつわを見つけてください。長くお使いいただいで、傷がついたりくたびれてきたら、どうぞ一度里帰りさせてください。また再会できる日を楽しみにしています。



滴生舎は天台寺に向かう途中にあります。  
営業時間：8時30分～17時  
休業日：火曜日

新しい色も加え、地元の酒器「こぶくら」を小型化したうつわ。  
伝統を大切にしながら、新しいスタイルにも挑戦している。